

第3回 香美市立図書館及び美術館収蔵庫建設等検討委員会

平成28年12月13日 18:30~

中央公民館2階研修室

出席委員：中村直人委員長・濱田正彦副委員長・山本恭弘副委員長

岡花瞳委員・野村貴子委員・野村文紀委員・奥野克仁委員

濱田久美子委員・町田由岐子委員・大岸真弓委員・式地美智委員

山本祥子委員・依光美代子委員・仙波美由記（14名）

事務局：教育長・次長・課長・班長・都築館長・松岡・佐竹館長・黒岩・依光

日建設計：森・服部

教育長

あいさつ

日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社の紹介。

委員長

事務局から、詳しい流れの説明と審議事項の説明を。

事務局

9月にCMコンストラクション・マネジメント方式を導入するにあたり、9月から10月にかけて、CMの業者選定作業を行って11月に入って、CM業務の委託先に決まった日建設計コンストラクション・マネジメントの方々と、協議や用地取得に向けての手続きの確認等の打ち合わせをした。

CMを入れるのは、専門的な視点から見て、コストのこと、発注者側の意図やデザイン、受注者側の提案内容が合致しているか、建設基本計画の中身が実現可能なのか、等の調整をはかってもらう目的。

今回と1回目、2回目の検討で固めたいと考えており、1月の会で、建設基本計画の案としてパブリックコメントに出せるものに整えたい。そのパブリックコメントと並行して、建設基本計画の案を基に設計会社のプロポーザルの作業を行っていく。

設計会社の決定は3月を想定しており、パブリックコメントで寄せられた意見を、基本計画自体にその反映するかどうかを検討委員会で諮り、建設基本計画が完成するという流れ。

建設基本計画を完成した後は基本設計の作業に入る。

美術館の収蔵庫の分については、美術館の方で、収蔵庫に関する会を、8月4日に開催をした。

委員長

議事録的なものを検討し、1月にさらに具体的な建設計画を立て、設計に必要なコンセプトを具体的にしていくということ。専門家の方にプロポーザルをしていただき、その中でわれわれの意見を一番反映しているものを決める、という作業に入る。

市民にもまとめた内容を公開して「もっとこういう風にした方がいいんじゃないかな」という意見を伺った上でプロポーザルをしたいと考える。

館長

図書館コンセプトについての説明。

副委員長

収蔵庫については、8月4日に部会を開いた。

部会の主な議題は、図書館と美術館の収蔵庫が合築することのメリット、収蔵庫の規模、将来的にみてどういったことが適切か、という課題に対して話をすすめた。

1点めとして、図書館と美術館収蔵庫を合築するメリットはどこにあるのか、という話の中で図書館側に「見える展示ケース」を設置してはどうか、と意見が出された。

図書館で美術品が無料で見れるというメリットがあるのではないか、美術館でこれらを展示しているという情報がそこから得ることもできる、現在行われている企画展との連携が「見える展示ケース」によってできるのではないか。

双方の職員、司書と学芸員の交流が気軽に行えるようになるのではないか。展示スペースの位置については、図書館側が使いやすいのではないかと話をした。

収蔵庫の規模とその内部環境について、建物の中での場所、収蔵庫内の環境のことを考えた時に、24時間空調であればどこの階にあっても、問題はないが、ランニングコストを考えた時に地階は一番メリットがある。

委員長

基本理念と基本方針を検討しなければならない。過去の問題を反映したものになっているかどうか。文章に関しては、言葉などは次回のところで細かく検討したい。

委員

毎回意見がよく網羅されていると思う。

基本理念の「学ぶ」「育てる」「伝える」「届ける」「支援する」「集う」全員の意見が網羅されて非常によくまとまっていると思う。

委員

香美市らしさで考えると、工科大が近いというメリットを含め、「集う」年齢、国籍、障害のあるなしにかかわらず、ということでサービスに、香美市ならではの特長をもたせて、掘り下げてできるのではないか。

香美市には、外国の方が高知市、南国市、須崎市について4番目に多いそうだ。エコとかエネルギーとかそういうことを、推進している香美市なので、もうちょっとと言葉と形になればいい。

委員長

図書館としての機能を全てつけると、市の特性をどこにおくのか、逆に今のように香美市らしさを前面に押ししていくとどこかを中心にして何かを削ったという話になる。どんなコンセプトの図書館になるのかと思う。

委員

香美市の蔵書数は多分少ない。公共図書館、大学図書館、学校図書館はそれぞれ目的が違う。システムを利用して公共とか学校とか大学を一つの空間にして、それぞれのところで図書館の本来の目的を達成する。利用者がそれを通じて色々できるようになるシステムができればいい。

委員長

今、工科大では大学院の充実をしている、新たに学芸員の養成をつけようという流れになっている。大学院で、学芸員の資格がとれるシステムをつけようとすると、実習先が必要になる。香美市にある美術館と図書館を大学院生を中心に学芸員資格取得を目指す学生が実習できれば市民のために役に立つ。

そういう相互メリットを、うまくいかして新しい運営をしたい、その方向性は変わらないということで、行政からも許可をいただき徐々に充実をする方向で進めている。

今は基本方針が 6 つと、少し多い。わかりやすいのは 3 つといわれる。

事務局

本日、欠席した委員の意見。

小さい子どもが自由に遊べる空間があればいい、基本理念の木が枝分かれしているイメージはいい。

蔵書冊数は面積に対して無理な数字を言っても仕方がない。密集書庫で、書庫をある程度入れればアップできる、その方向で考えて増やしたらどうか。

蔵書冊数と別に、毎年の購入冊数は一定数確保して欲しい。冊数というよりむしろ資料費の方が重要だが、入りきらなくなった分は除籍基準をきちんと作って最低、県図書館が持っていないものを保存するなど除籍を日常的に行っていくことが必要。

パソコンはデスクトップ 4 台、ノート・タブレット各 8~10 というのはどうか。16 人から 20 人の集まりなら対応できる。Wi-Fi などがあれば自分でパソコンやタブレットを持ってこられない人も人数を制限すればよい。

委員

閉架図書の面積が限られているので、そこが 1 つのキーポイント。デジタル化を進めて、充実させれば一定の蔵書数も確保できるし、資料も確保できる。できるだけ学生等を使ってデジタル化して、スキャナーしたりとかしながら保存する。それらを保管する場所は十分確保すべき。

委員長

図書費とか資料費の購入とともに、運営のことを考えてシステムを作らないといけない。

デジタルのシステムは維持にお金がかかるが、ぜひ入れていただきたい。

委員

防災の観点で、これから 3、4 年後に建てられるしたらおそらく香美市で一番安全な建物になると思う。県立図書館は 3 千人が避難する想定のもと、3 日間の備蓄があると発表している。自主的避難ができる施設であればなお良いが、一時的に何人かが過ごせる施設であればいいかと思う。資料を守る、人の命を守る、どちらも守る。

委員長

市が持っている防災計画では、どう行動的に位置づけるか。

教育長

楠目小学校・鏡野中学校などの体育館が避難所になっている。

委員長

収蔵スペース等を考えると、食糧の備蓄は、現実的ではない。市役所で配置されてる計画があるでしょうから、その備蓄を優先していただいて、と思う。

委員

香美市は津波の危険性がないので、被災された南国市や高知市、香南市の方たちが、香美市に避難してくる、

図書館の中に避難をすることを想定して運用できるようにしておくことが、これから建てる公共の施設には大事な観点ではないか。防災関連の観点をどれくらい図書館のシステムの中に入れるかっていうことを検討する余地はある。備蓄についてはいかがなものか。

委員

図書館としての機能を一番に優先する。

委員

本を通じてケアをする。長期間、被災された人たちの心のケアも図書館ができるのではないか。

委員長

図書館で、というのは少し難しいかもしれないが、基本、利用されている人が中にいる時に2次災害、本が落ちてきたり倒れたり、怪我などされる可能性がないような造りになると思う。

市民の方たちが、図書館をサポートして、自分たちが運営する、図書館のために何かしてあげたいなど市民が思って集まる場所になるといいなと思う。

委員

図書館の空間デザイン、周辺の空間デザインが非常に大切。

委員

ある図書館に行った時に本棚の横に椅子がある。いいなと思った。

蔵書数だが、香美市の人囗規模から考えてもやはり10万冊は、必要というお話をいただいた。財政的なこともあるが、とても大事なこと。

委員

パソコンのことだが、数が揃うと集団で学習することができるのではないか。20台前後あれば一斉に学ぶことができる。

市民が色々なものを展示できるスペース、小学校・中学校の子供たちが、成果物を発表できるような場所、ギャラリーの形式ではなくても可動壁のようなもので対応ができるといい。

靴を脱いでくつろげるスペースを設けるといい。汚した場合、張替えができないとか、今はアレルギーのこともあるので、毎日、きちんと管理ができるかどうか、精査していくべき。

新設の県立図書館はリノリウムになったと聞く。そこも検討すべき点ではないか。

委員長

あまりにも多くのスペースを展示に割くことはできないが、きちんと毎週、何かテーマを持って美術館と連携した作品を並べるようなスペースがいくつかあるのは重要。

収蔵庫を一緒につくることの意味を図書館に来る人に訴えかけるというのは意味がある。

委員

視聴覚室が入っていない、どこか該当するのか。

委員長

特別に視聴覚室というのではない、設けるべきなのか、パソコンやそれに類するもので代用していくのか。

委員

資料などもできればデジタル化、検索する時に、文字が書いていれば検索できる。簡単に取り出せるので、職員も相当助かる。

委員長

ナビシステムとの連携によって見ることができ、本が無くなることが、ほぼ無くなってくる。

誰が借りているかある程度わかつていて、何日過ぎるとどこにあるかも判る。

図書館の中でも、どこに持ちだされているか分かる。費用対効果で、収蔵が難しかったり、本の貸出とかを効率化するときにできるだけ機器を使ってシステムを組むことによってコストダウンと、利用頻度をあげるということができる。

予算の関係があるので、全部導入することは難しいが。

委員

対面朗読室について、目が不自由な方に、デイジー（視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人のためのシステム）において、モニターで文字を流しながら本を読むサービスや、直接本を読むサービスがある。

香美市では音訳ボランティアがいるので、協力を得て、いつでも、全ての方に読書が楽しんでもらえるサービスを打ち出していくことは可能だ。

委員

生涯教育のなかで、放送大学があるといい。

委員長

他の市立の図書館で放送大学のスペースを置いてある所がある。

3～4万の市でも置いているところは増えている。

委員長

大分意見も出揃ったので収蔵庫の方に話を移してもよいか。

委員

収蔵庫への動線の独立性を確保するといっておきながらエレベーターは共用。

4トントラックの配置、トラックヤード、4トンというと結構大きい、4トントラックが振り回せるスペース、できた後、「トラックが回せない」ということにならないよう、設計の段階で考えておく。

委員

最低限安全面の確保と、作品を守る意味で、エレベーターとか出入り口の共用がどこまで分けられるのか、というところが気になる。

委員

作品は見られてなんぼ、基本的には公開すべき。図書館はあくまでも図書館であって、展示に相応しい環境か

どうか。セキュリティをどのように確保するかということが大事。そこに、どう作品を展示するか考えるのが大事。

委員

例えば照明の照度などは、展示する作品によって違つていい。

委員

美術館なら上限は 200 ルクス、相当暗いはず。字を読むのが主である図書館と、美術品を鑑賞する、そういうった照度はまた違うはず。本を読む明るいところから美術品を鑑賞するところは、突然暗くなる。何を展示するか、どんな風に鑑賞させるか、方法をしっかり考えておかないといけない。

委員

空調はどうか。

委員長

収蔵庫は 24 時間だが、展示する場合。

委員

当然、24 時間は無理だから、それに耐えうるような作品を選んでということになる。

委員

スペースをとって、環境を整えたら、それに合うような展示の仕方ができる。

委員

本は非常にカビが多い。古くなればなるほどカビが多い。

委員

インクが酸化するとすっぱい臭いがする。科学的な成分が美術品に影響を及ぼさないような展示の仕方を考えなければいけない。

子どもたちには本物に触れさせたい、触れてもらいたいという思いはある。触れる彫刻、目の見えない人でも触って楽しめる彫刻、そういうたるものもユニバーサルであってもいいのではないか。わざわざ高額なものをガラスケースの中で見せるのではなくて、市民の身近にある美術品として距離が近くなるのではないか。ライブラリーとアートという融合ができるのではないか。

委員

展示ケースから飛び出るような自由な発想があれば、香美市独特の美術空間になる。

委員

初めから触って鑑賞するということを前提にした作品をアーティストに依頼して作ってもらう。

委員長

美術館の機能でそういうことを果たしていくのと、図書館の機能の中にそういう要素をどこまでいれるかということを再検討する必要がある。

今の収蔵庫は、とんでも無い状態。よくあれで美術品を保管していると驚いた。一刻も早く作らないといけない状況。もう、人が入れない。適正な配置にするだけでも 200 m²程度必要である。

委員

機能として静寂読書室は検討されないので、音が一切入ってこない。

教育長

ずっと執筆している人達がいた。伊万里の場合は建物から少し奥まった所に、地域の色々なものを置いてある奥に、本も読める静寂の場があった。普通の話はいいが、子供の読み聞かせの部屋と、本当に静かな部屋が欲しい。今の所では、なかなか取れない。

委員

子供が本を読むと、読み聞かせすると、ちょっとうるさいと感じる音、例えばパソコンのキーボードの音がカチャカチャというのが気になるとか、そういう方も多いいらっしゃる、そのさびわけを検討されてはどうか。

委員長

パソコンを、例えばノート型の 20 台借りるときに、ノイズキャンセラー付のヘッドフォンを、同時に貸し出していくだと、完全無音室ができる。

自由に集まって話しながら学んだり集会的なシステムが使えるのは、ホールを想定しているのか。

ラーニングコモンズ的な役割として、ノートパソコン、タブレットを持って、画面とか出してみんなで議論しながら話を進めるみたいなどころっては、どこになるのか。

事務局

グループ学習のところ。

委員長

「10 人程度を想定」か。ホールはどういう使い方を想定されているのか。

事務局

ホールは主に図書館のイベントを行う。少し大きめの会議をするとかを想定している。

委員長

会議は会議室があるよね。

こういうホールができたら二つにわけられるというのもあるし、一応自由に学ぶときに使えるようなシステムにはするのか。

図書館のことで、エレベーターはどういうイメージか。収蔵庫用専用として安全性を保つとなると、何台つけるイメージか。

事務局

来館者用のエレベーターと、収蔵庫の貨物エレベーターの 2 台は設置したい。

委員長

収蔵庫専用のと、図書館用に 1 台のイメージで今考えているということか。障害者用エレベーターと、収蔵庫用の 2 つは確保するイメージだとは思うが。

委員

補聴器をしている年配の方とか難聴の方は LAN が入るとかはないのか。配慮ができるのであればご検討いただきたい。

委員

アクティブラーニングのところが結構騒がしくなったり、無音室なのに音が反響してしまう構造になってしまったら、使い勝手が悪くなるのではないか。音もきちんと吸収できる造りになっていたらいい。

委員長

大きい建物を造ると音のコントロールが難しい。高額になっていくので C L T だとほんとに作業が難しい。

委員

収蔵庫が、コスト面で考えたら地下が一番相応しいということだが、地下に設置すると固定するということで、車が多く通行する道路の振動は大丈夫か。

委員長

地下を作ると結局、コストがかかる。振動等に耐えうるようなシステムにするのは、温度・湿度の管理はしやすいが、普通に建物を建てるコストと比べると何倍もかかる。

香美市の予算からいうと、2 階建てという考えだと思う。

他に意見がなければ、次回の会を 1 月 16 日の週で開くことにして、市民の方に意見をいただく文書を出し、それを基に作業を進める。

事務局と日程調整

委員長

次回は、来年 1 月 17 日火曜日 6 時半。変更があれば、事務局から連絡します。

閉会（20：23）